

暮らしと観光が
ともに豊かになる対馬へ

対馬市観光振興推進計画

市民ワークショップ

あなたの声が、対馬の未来をつくる



1

開会挨拶、趣旨説明

3分

対馬市観光振興推進計画策定及び市民ワークショップ開催の趣旨説明



2

「近年の観光動向と対馬の観光の現状」の共有

10分

全国・世界の観光トレンド、対馬における近年の観光動向



3

「市民ワークショップ」の説明

5分

ワークショップの開催趣旨、進め方の説明



4

グループワークの開催

85分

ワーキング①

対馬観光の
特徴や課題について



ワーキング②

対馬観光の
目指したい姿について



まとめ
発表準備



5

グループワークの発表・まとめ

17分

各班ごとにグループワークの結果を発表（各班4分程度）、閉会挨拶

＼話題提供／

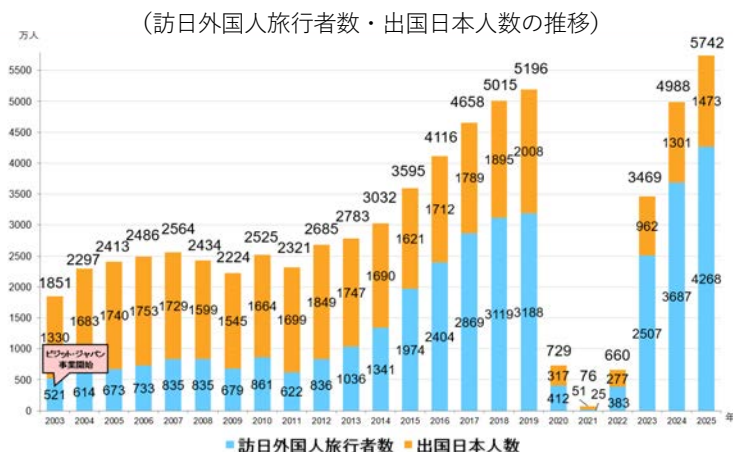
近年の観光動向と 対馬の観光の現状について

全国・世界
トレンド

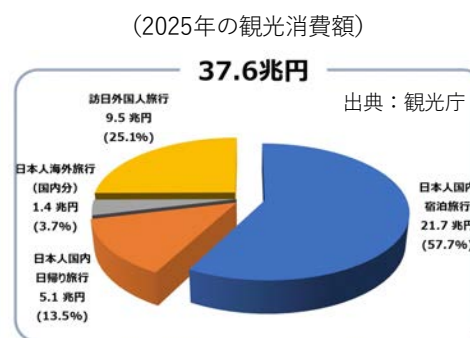
アフターコロナによる観光客の回復・インバウンドの激増

アフターコロナでは観光客が回復傾向にあるものの、日本人の国内・国外旅行者数はコロナ前の水準には達していません。一方で、世界的にインバウンド需要が急回復し、2025年の訪日外国人旅行者数は過去最多を更新。観光消費額を見ると、日本人の国内観光消費額が約7割を占める一方で、インバウンド消費は全体の25%、国別では中国・台湾・韓国・香港と近隣アジア諸国が上位を占めています。三大都市圏に集中していたインバウンドは地方にも分散傾向にあり、その効果の期待が見られる一方で、訪日客を増やす量の観光に対する疲弊が見られます。

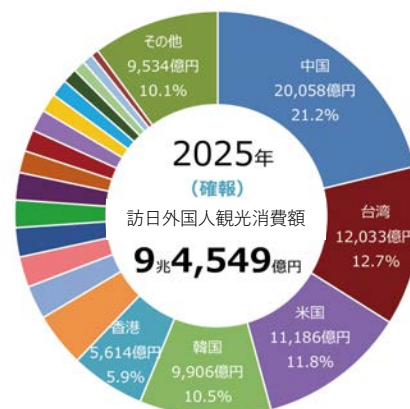
特に外国人旅行者の増加傾向が顕著



近隣アジアの消費が牽引



(国別の外国人観光消費額)

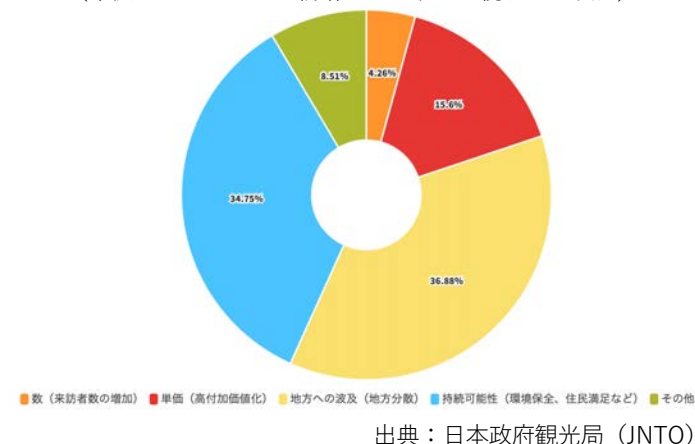


オーバーツーリズムへの対策が急務

(三大都市圏・地方部別の訪日外国人観光消費額の推移)



(今後のインバウンド戦略として最も重視すべき項目)



国内意識調査では訪日客数など「数」を重視する回答は4.26%にとどまっています。同調査の記述では単なる誘致を超えた「地方への波及」や「環境保全や住民満足などの持続可能性」へのニーズが際立っています。

全国・世界
トレンド

量から質、モノからコト、消費から再生。地域を大切にする観光が主流に。

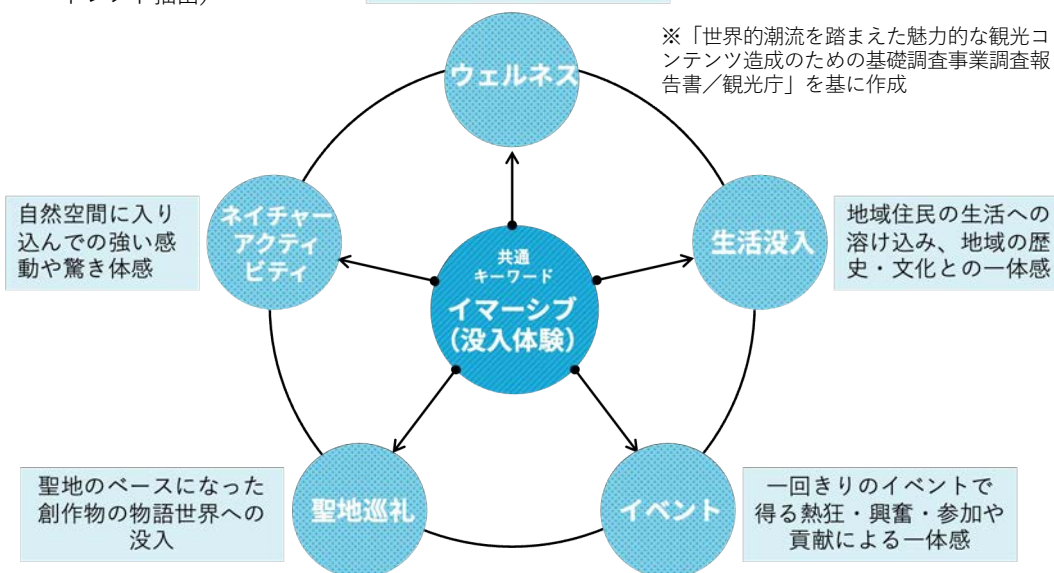
アフターコロナでは、世界の観光は大量集客型モデルの「量から質」「消費から再生」へ大きく変化しています。観光庁の世界的潮流を踏まえた戦略としては、世界的な観光のトレンドは「モノ消費」から「イマーシブ（没入感）体験」を重視する「コト消費」へ大きくシフト。また、環境保護や地域利益を重視するサステナブル観光が国際基準として浸透し、富裕層もローカル体験や環境配慮を重視。さらに、地域を回復させる旅「リジェネラティブ（再生・創出）ツーリズム」「意味を見出すパーパス旅（何を求めるのではなく何を残すか）」への関心が高まり国内でも事例が話題になっています。

観光先進地域は「観光客増」ではなく「地域主権や地域の循環を守りながら誰を迎えるか」という発想へ価値観が変容。

（観光コンテンツの
トレンド抽出）

食生活の見直し、ヨガ、
瞑想等を通じた自分自身
への深い洞察（自己省察）

※「世界的潮流を踏まえた魅力的な観光コンテンツ造成のための基礎調査事業調査報告書／観光庁」を基に作成



訪問地域への配慮



観光が地域に与える
影響を意識する
53%

- ・ よりサステナブルに旅行することが重要（世界84% 日本69%）
- ・ サステナブルな旅の選択をしたい（世界93% 日本85%）
- ・ 使ったお金が地域コミュニティに還元されてほしい（世界73% 日本63%）
- ・ 地域を来たときよりも良好な状態にして帰りたい（世界69% 日本59%）
- ・ 「地元ビジネスの支えになっている」と感じる（世界54% 日本18%）
- ・ 現地の文化を代表する本格的な体験をしたい（世界77% 日本57%）

※引用データ：2026年4月環境省「観光とリジェネレーション」
／国連世界観光機関(UN Tourism)

観光産業における気候変動対策に関するグラスゴー宣言

UNWTO UNEP VisitScotland TourismDeclares Tourism Foundation

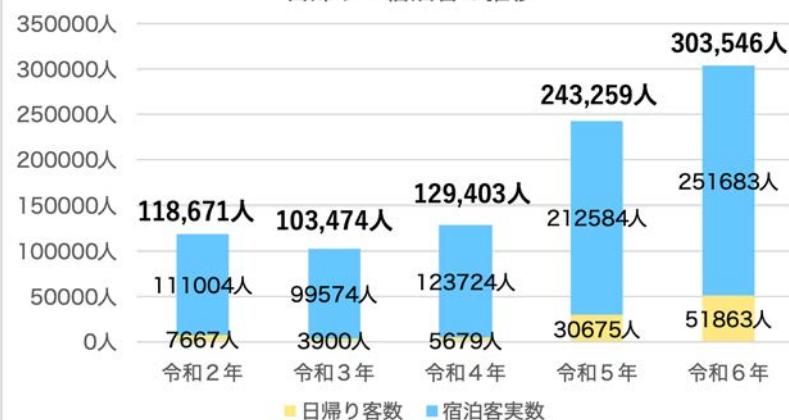


対馬観光の
動向

アフターコロナによる観光回復、特に韓国人観光客が大幅に増加

令和2年4月のコロナウイルスによる緊急事態宣言により令和2～4年の観光集客・消費は低迷していましたが、令和5年の「5類移行」を契機に回復。令和6年には観光客数が30万人を突破、大部分を宿泊客と県外客が占めている傾向にあります。近年では特に韓国人観光客が大幅に増加回復しており、円安によってその傾向は続いています。観光消費額については、全体総額は大幅に回復傾向にあり、現行計画の数値目標になっている1人1泊あたりの消費額は増加傾向にあるものの目標金額は達成できてない状況です。

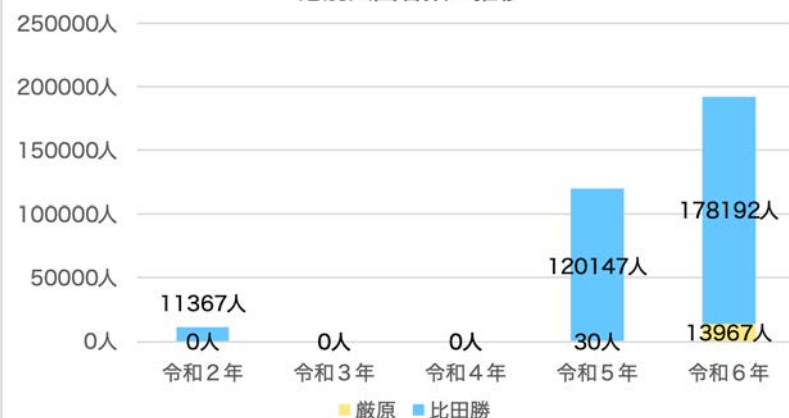
日帰り・宿泊客の推移



県内・県外客の推移



港別入国者数の推移



1人1泊の観光消費額の推移



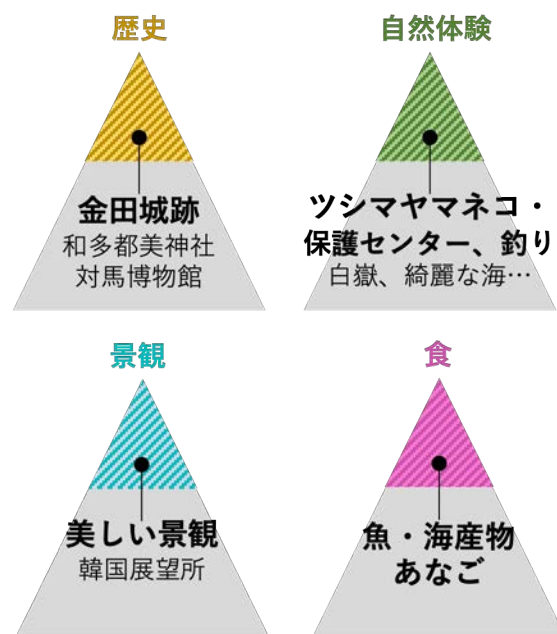
※「長崎県観光統計」
よりグラフ作成

対馬観光の
動向

対馬を深掘りするコアなツーリズムの推進・評価

他の地域にはない
対馬独自の観光動機

現行計画以降に実施した観光満足度調査によると、「歴史」「自然体験」「食」「景観」の分野でコアなお目当て（旅の目的）が存在し、他の地域にはない対馬の自然文化を目的とした来訪動機が創出。



出典：令和7年度対馬観光満足度調査
（対馬観光の具体的なお目当て）

課題を価値に変換する
スタディツアーの受入

課題を逆に、対馬ならではの自然環境特性を活かした「学び」を目的としたスタディツアーが人気となり、企業や教育機関からの来訪ニーズが増加。



上写真：筆者撮影、中・下写真：インターネット

欧米・アジアからの観光客
ノマドワーカーが増加

ゴーストオブツシマを契機に対馬における日本文化が世界から評価され、韓国以外でのインバウンドが増加。近年では、欧米客を中心に禅をテーマにした個人客が増加。また、ノマドワーカーがおすすめするスポット上位にランクインされ、長期滞在のニーズが今後拡大することが期待。



上写真：筆者撮影、下写真：zensamurai website

対馬観光の
動向

近年増加する関東・関西来訪者とネックになる距離・コスト

エリアは九州・関東・関西、一人旅、
「初めて」「40-69歳」が来訪者の特徴

年齢層は40-69歳がボリュームゾーンで、近年では関東・関西からの来訪が増えています。一人旅が多いのが対馬の特徴であり、距離もあってか「初めて」の来訪が6割を超えています。

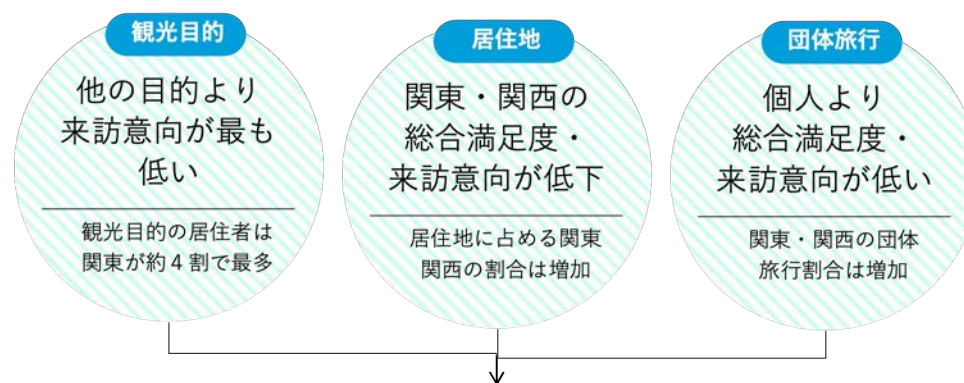
(対馬観光満足度調査回答者の主な傾向)

項目	主な傾向
性別	「男性」「女性」は約半数ずつ
年齢	「40-69歳」がボリュームゾーン
居住地	「九州・沖縄」約4割「関東」約3割「関西」約2割
同行者	「一人」が最多「家族・親族」「夫婦・カップル」が多数
対馬來訪数	「初めて」が6割以上（3回以上は約3割）
対馬來訪の目的	「観光」が約6割と最多で、「ビジネス」「対馬在住者の訪問」が多数
決め手の情報源	「情報知っていた」が最多「観光情報サイト」「口コミ」が多数。上位3位は昨年度より変更なし
対馬の具体的な目的地	「自然・アクティビティ」が最多、次いで「食」「歴史」の順番が多い

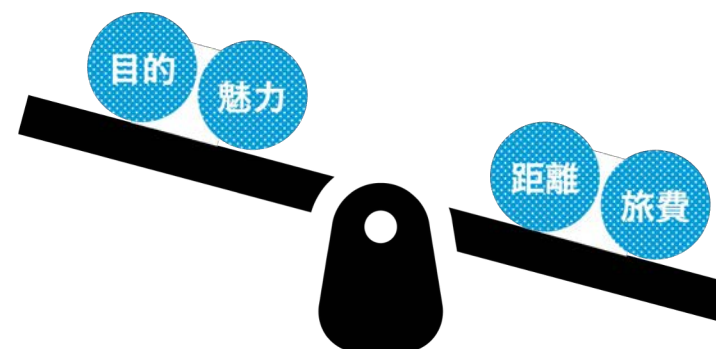
出典：令和7年度対馬観光満足度調査

遠方の旅行者が増える中でアクセスの
ハードルを越える魅力・動機が必要

関東・関西の来訪者が増える中、総合満足度と来訪意向は低下傾向。大きな要因となるのが対馬への距離・コストであり、いかに対馬に行く動機・滞在する価値を生み出すかが満足度向上の鍵となります。



遠方からの旅行は、来訪意向のマイナス要因となる距離・旅費が大きな障壁に。その壁を越える観光的魅力（質）と強い目的が不可欠



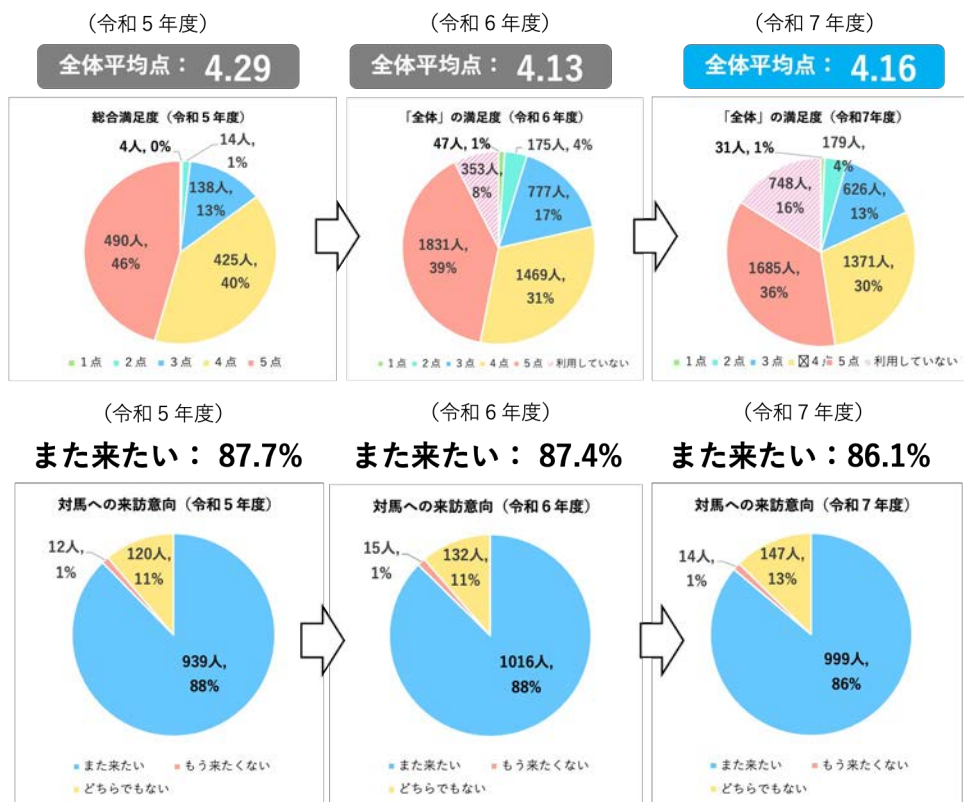
出典：令和7年度対馬観光満足度調査

対馬観光の
動向

計画の数値目標である総合満足度及び来訪意向は減少傾向

全体の総合満足度は昨年度より微増 来訪意向は年々減少傾向

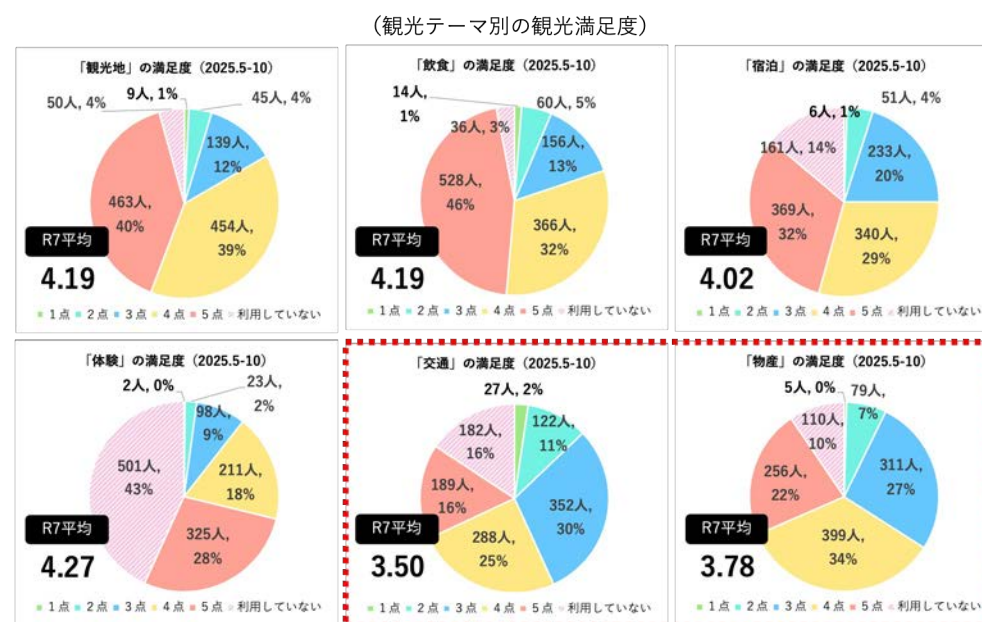
令和7年度の総合満足度は令和6年度と比較して微増傾向にありますが、全体的には減少傾向にあります。対馬への来訪意向は、令和7年度にかけて年々減少傾向にあります。



出典：令和7年度対馬観光満足度調査

分野別の満足度においては 「交通」「物産」が突出して低い結果

観光地・飲食・宿泊・体験と比較して、「交通」「物産」の満足度平均点は3点台と突出して低く、全体の総合満足度の低下に大きな影響を与えることが懸念されます。



「期待する観光サービス・おもてなし」の回答上位

1位「交通手段の充実・魅力化」、2位「島への交通アクセス・交通費の改善」、3位「市内交通アクセス・路線バスの改善・情報強化・サービス拡充」と上位3位を交通関連が独占

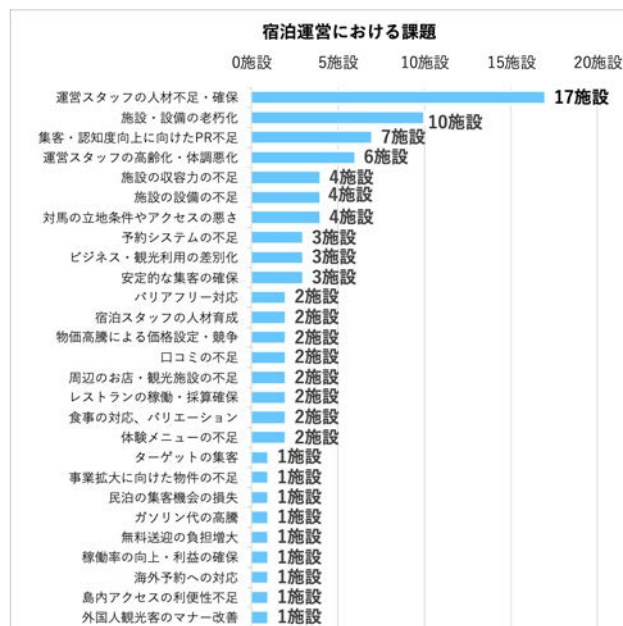
出典：令和7年度対馬観光満足度調査

対馬観光の
動向

観光を維持するための持続力の低下

人口減少による 担い手不足の深刻化

昨年度実施した宿泊事業者ヒアリングによると、「運営スタッフの人材不足・確保」が突出して多い課題となりました。加えて人材不足による飲食施設の閉業等も見られることから、担い手不足の解消は対馬観光の喫緊の課題です。



出典：令和7年度対馬観光満足度調査
宿泊事業者フォローアップレポート

観光サービス提供を可能にする資源・インフラの維持

対馬観光を楽しむ資源・インフラの維持も課題。近年の温暖化に伴う水産資源の減少や金田城・白嶽の登山道の維持管理、運転免許を持たない観光客に向けた交通サービスの提供は早急な対策が必要です。



海温上昇により対馬の水産資源は減少傾向



金田城の登山道整備（写真：エコツーリズム推進協議会HP）

オーバーツーリズムによる暮らしと観光の共存

令和5年より韓国人観光客が増加して観光収入が飛躍的に増加する一方で、飲食・宿泊施設の予約が困難になったり、バスやスーパーなど暮らしに影響が出たり、文化施設でのトラブル等が発生しています。



厳原にオープンした国際ターミナル



暮らしや文化への理解促進が鍵（写真：産経新聞HP）

国境の島ならではの持続可能な観光戦略を策定

全国・世界のトレンド

- ・インバウンドの回復
- ・量から質、モノからコト消費消費から再生へ。地域を大事に魅力化する観光が主流に
- ・AIに選ばれる観光地
- ・観光のKPIの価値変換

量から質へ
コト消費へ
消費から
地域再生へ

デジタル化
地域価値の
向上へ

対馬観光の変化

- ・コロナ後による観光回復
- ・対馬を深掘りするコアなツーリズムの推進・評価
- ・関東・関西からの来訪者増加
- ・満足度・来訪意向の減少
- ・観光を維持する持続力の低下

コアなツーリズム

島の持続力の向上

現行計画の評価

- ・取組みによる一定の成果と持続可能な観光に向けた課題
- ・源の島としての価値を体験するマニア志向の観光
- ・ターゲットの一致と外国人による新たなニーズ

コアター
ゲット拡大

顧客ニーズ対応
満足度向上



対馬の実情と可能性を見極め、長期的な視点で恩恵をもたらす観光のあり方を模索

暮らしの共存・持続的な観光を考えるワークショップを開催します。

暮らし

快適で安心な日常生活
生活を彩る農水産物
豊かな自然環境
安全な交通マナー



暮らしと
共存できる
観光とは？



観光

対馬の価値の発見・評価
外貨獲得による経済効果
地域資源の活用
外部人材の受入



無理なく
続けられる
観光とは？

上・中・下の3エリアワークショップ開催

上対馬／比田勝開催

・ 10月4日（日）／上対馬総合センター

中対馬／豊玉開催

・ 10月4日（日）／豊玉文化会館

下対馬／厳原・美津島開催

・ 10月2日（金）、3日（土）

／対馬市交流センター

・ 10月3日（土）／美津島文化会館



1

開会挨拶、趣旨説明

3分

対馬市観光振興推進計画策定及び市民ワークショップ開催の趣旨説明



2

「近年の観光動向と対馬の観光の現状」の共有

10分

全国・世界の観光トレンド、対馬における近年の観光動向



3

「市民ワークショップ」の説明

5分

ワークショップの開催趣旨、進め方の説明



4

グループワークの開催

85分

ワーキング①

対馬観光の
特徴や課題について

40分

ワーキング②

対馬観光の
目指したい姿について

40分

まとめ
発表準備

5分



5

グループワークの発表・まとめ

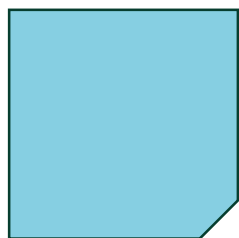
17分

各班ごとにグループワークの結果を発表（各班4分程度）、閉会挨拶

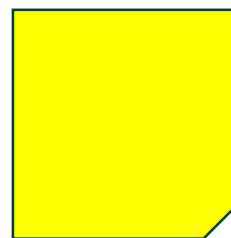


ワーク①

対馬の観光における特徴や課題について
意見交換しましょう。



対馬の観光の魅力
対馬の誇れるところ

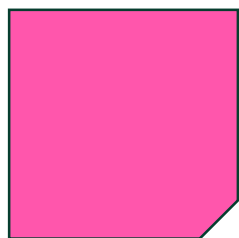


対馬の観光の課題
困っていること



ワーク②

対馬の観光における目指したい姿について
意見交換しましょう。



5年後に目指したい
対馬観光の姿

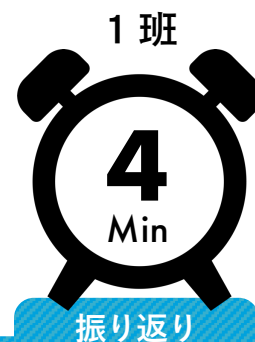


目指す観光に向けて
必要なこと

(グループワークの対話のエチケット)

- 1 あなたの考えを積極的に話しましょう。
- 2 話は短く、簡潔にお願いします。
- 3 相手の話に耳を傾けましょう。話を遮らない、相手の意見を否定しないようにしましょう。
- 4 模造紙や付箋に話したこと、気づいたこと、大事だなと思ったことなど、何でも構いません、メモを残しましょう。
- 5 テーブルのお菓子を食べたり、飲み物を飲んだり、リラックスしながら楽しみ、適宜トイレ休憩をとりましょう。

対話を楽しんでください！



グループ毎にどんなことを話合ったか
全体で共有しましょう！